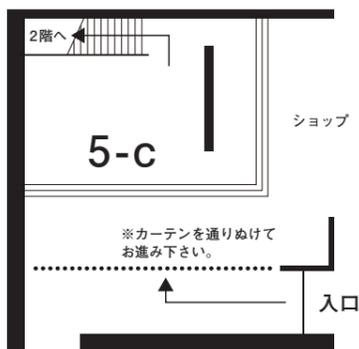


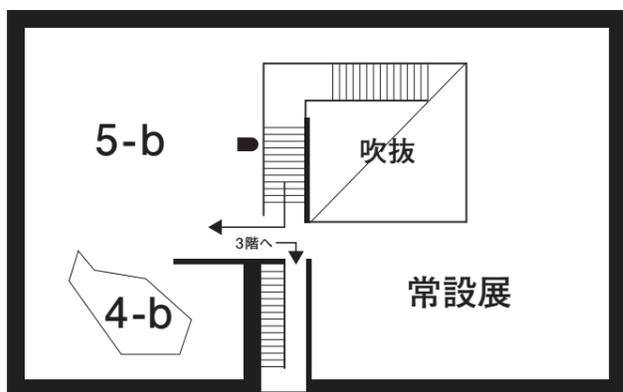
# 拡張するファッション

2014年6月14日(土)ー9月23日(火/祝) 会期中無休  
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

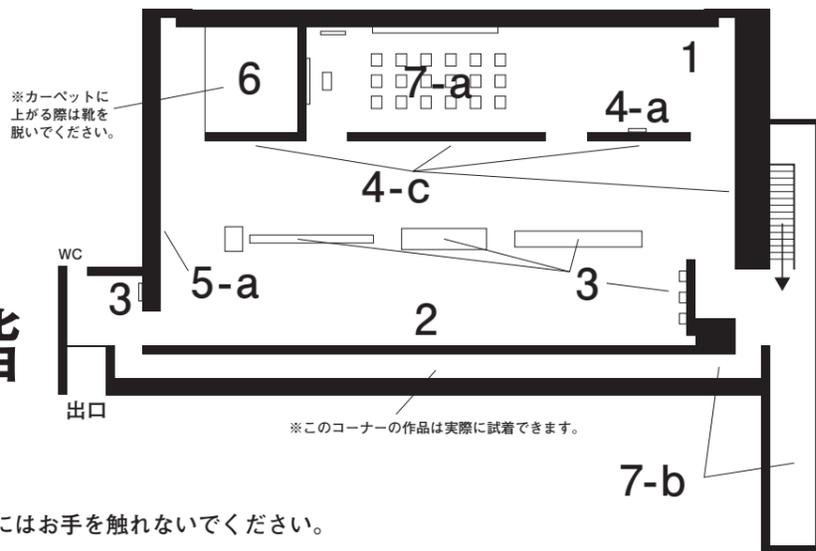
1階



2階



3階



※展示作品にはお手を触れないでください。



「ファッションは楽しいし、ファッションについて考えることも楽しい。それは美しさに関係することであると同時に、他の誰にも代えがたい自分というものを、生活のなかのどこかで一瞬、垣間見せてくれるものだからだ。ファッションについて語る言葉、借り物でない自分の言葉を取り戻すことはどんな人にも何かしら、勇気のようなものを人生に与えてくれるに違いない、と思います。」

(林央子著『拡張するファッション』より)

1990年代半ば以降にファッションの世界やその周辺で起こった新しい動きをまとめた林央子の著書『拡張するファッション』(スペースシャワーネットワーク、2011)をもとにした展覧会です。クリエイションの面からファッションにアプローチし、ファッションを、人々が日常生活の中で美的感覚を養い、生き方や考え方を他者にコミュニケーションするための手段ととらえ、ファッションを軸にインディペンデント出版活動、写真、絵画、映像、パフォーマンス、ワークショップなどさまざまな手法を用いて現代的なものづくりを行っている国内外のアーティストたちをご紹介します。

## 1. ファッションは分かち合う行為

パスカル・ガテン、越智明日奈、安井理恵、順子、本田望、谷本真理子、石川賀代、長尾佐和子、三谷佳子、坂本聖子、須藤恵美子〈Questioning the Concept of a Uniform (制服のコンセプトについて考える)〉 インスタレーションと制服、2013年

「ファッションは私たちの、生きる力が現れるところです。ファッションは私たちの創造性や傷つきやすさを表出させ、他者と自分自身を分かち合う献身的な行為なのです」と語るガテンは、当館の監視員とワークショップを行いました。彼女たちは仕事上の体験や服についての想いを話し合いながら、本展のために自分たちが着る制服をつくりあげました。完成した制服は、監視員という役割を示しているとともに、一人ひとりの個性や感情がこもった唯一の服となっています。

## 2. 越境は写真から始まった—— ストリート、ファッション、ドキュメンタリー

ホンマタカシ 〈Almost Grown—fashion as documentary 1991-2014〉写真によるインスタレーション、2014年

ホンマタカシは1990年代にドキュメンタリーフォトの手法をファッション写真に導入し、新風をもたらしました。また、写真は興味や感覚を共有する人々や、ファッション、音楽、建築など、さまざまな文化領域をつなげるメディアでもありました。本展では、ジョセフ・ザボの写真集をスタートとして、ホンマが1990年代のロンドン滞在中、雑誌「i-D」に発表した写真、現在は映画監督として知られるソフィア・ Coppolaとホンマとの交流の記録としての写真、1990年代から現在に至るまでホンマが撮影してきた建築やファッション、子供や郊外の写真をさまざまな複製方法で再構築し、時代の風景を出現させます。

## 3. DIYメディア——実験的な制作精神

1990年代に普及したパソコンは、グラフィックデザインやインディペンデントな編集の可能性を飛躍的に拡大し、従来のマスコミ主体のメディアのあり方に変革をもたらしました。グラフィックデザイナーの服部一成が構成したこのコーナーでは、初期の「Purple」、「here and there」、Nievesといった個性的なインディペンデント雑誌や出版活動を紹介します。またモニターで上映されているドキュメンタリー〈io(アイオー)〉(監督：Sébastien Jamain、2002年、54分)は、Purpleの創刊10周年に制作されたもので、当時誌面に関わった人々の熱気が記録されています。

## 4. ガーリームーブメント再考—— 日常への視点、自発性、複数の表現手段

4-a, ミランダ・ジュライ 〈アトランタ〉DVD、10分、1996年、〈Learning to Love You More——あなたをもっと愛する練習 課題#55〉2002年-2009年/2014年(丸亀バージョン)  
4-b, 青木陵子 〈大小のエピソード〉インスタレーション、2014年  
4-c, 長島有里枝 〈Untitled〉写真によるインスタレーション、2014年

ライオット・ガール(怒れる少女たち)に代表されるフェミニズムとも関連する文化の一動向であった「ガーリー」は、とりわけ日本では洋服や音楽の消費促進のために濫用される用語になってしまいました。本展では、ガーリームーブメントの本来的な特徴である「日常への視点」、「自発性」、「複数の表現手段」に焦点をあて、ガーリーという概念やスタイルについて再考を試みます。映画監督、女優、小説家、現代美術作家など、複数の顔をもつミランダ・ジュライは母親の抑圧をテーマとして制作した映像作品〈アトランタ〉、そしてハレル・フレッチャーとともにウェブサイトを活用した参加型プロジェクト〈Learning to Love You More〉を展示します。青木陵子は、自分の家族がおこなう手工芸から着想を得たインスタレーション、長島有里枝は自身が子供の頃に着ていた服を譲り受けた姪たちや若かりし頃の母の写真、そして長島自身のセルフポートレートと自分の息子の写真など、過去と現在の家族の姿を写真でつなく作品を発表します。

## 5. 新しい想像力との出会い—— ファッション=デザインの枠組みの無効化

5-a, スーザン・チャンチオロ 〈Castle in the Sky's, Modular Geometry〉インスタレーション、2014年  
5-b, COSMIC WONDER 〈COSMIC WONDER RESTAURANT〉インスタレーションと記録映像、2013年  
5-c, BLESS/小金沢健人 〈BLESS N°45 Soundperfume in Summer, brought by Takehito Koganezawa(夏のBLESS)〉インスタレーション、2014年

ファッション=デザインという枠組みにとどまらず、絵画、あるいはパフォーマンス、インスタレーションとファッションを関連付けているアーティストたちの活動を紹介します。スーザン・チャンチオロは、自分が制作する服を「絵画作品」と語っています。本展ではドローイング、テキスタイル、アニメーションなどで壁画を制作しました。COSMIC WONDERは2013年の秋にニューヨークの公園でパフォーマンスをおこない、新作コレクションを発表しました。来場者はプレゼントを持参することで、パフォーマンスの入場券を手に入れることができます。お金の代わりに気持ちの贈与を媒介としたこのパフォーマンスは5月に水戸芸術館でも開催され、その時に使われた道具を展示しています。BLESSは洋服だけでなく、電気コードにつけるアクセサリーや自動車のカバー、椅子に着せる服といった住環境を彩るアイテムも発表してきました。本展では、小金沢健人とコラボレートし、人が触れることで音が生み出される作品〈N°45 Musiccurtain〉に小金沢が映像作品をからめ、映像機器のコードにはBLESSが丸亀で制作した(N°26 Cable Jewellery)を使用、コードはBLESSの万能コートハンガー(N°51 Silent Servant)につながり、その先の吹き抜けには映像に使用された小金沢のドローイングが展示されています。

## 6. 古さ、遅さといった価値観の見直し—— 服と人との幸福な関係

横尾香央留 〈お直し—karstula—〉インスタレーション、2013年

横尾香央留は、持ち主にとって大切な衣服にじっくりと向き合い、時間をかけて刺繍やかぎ針編みでお直しをほどこし、日々まとう愛着の1枚をこの世にひとつしかないものに変化させます。横尾は2013年、フィンランドのカルストゥラという小さな町に1ヶ月滞在し、新聞等で住民に呼びかけお直しを希望する衣服を持ち寄ってもらいました。集まった服の持ち主の印象や彼らの話をもとにお直しを施したものを今回は展示しています。お直しされた衣服は展覧会終了後に持ち主の元に帰っていきます。

## 7. ファッションは人生の伴走者—— 技術、経験、感情の分かち合い

7-a, 神田恵介×浅田政志 〈卒業写真の宿題〉Cプリント、2011-2013年、〈卒業写真の自由研究〉スライドショー、14分、2013年  
7-b, FORM ON WORDS 〈ファッションの図書館[丸亀]〉古着によるインスタレーションとデジタルアーカイブ、2014年、〈試着〉衣服、2014年

作り手と受け手の新しいコミュニケーションの方法を実践しているアーティストたちの取り組みを紹介しています。神田恵介と写真家の浅田政志は2011年より〈卒業写真の宿題〉というプロジェクトを行っています。このプロジェクトでは希望者を日本の高校生から募り、その高校生のもとを神田と浅田が実際に訪れます。そして神田が特別にあつらえた服を着た高校生を浅田が撮影し、本当の卒業アルバムには掲載されない「卒業写真」が誕生します。また、「卒業写真」シリーズの番外編、自由研究をスライドショーで上映します。FORM ON WORDSは丸亀で収集した古着とそれにまつわるエピソードを〈ファッションの図書館〉として展示します。また、水戸芸術館で集めた古着で制作した新作の衣服も展示されており、それらは試着することが出来ます。

●ホンマタカシ サテライトマルガメ vol.2 展示会場の外にも作品を展示しています。

1. café la taupe (カフェ・ラ・トープ)  
ホンマタカシ×大原次次郎  
〈稜線/Breithorn〉写真、カッティングシート、2014年  
〈稜線/Dolomiti〉写真、インク、2013年  
大原次次郎 〈稜線/気配〉インク、2013年  
場所：丸亀市通町28-3  
営業時間：11:30-22:00 (LO 21:00)  
※貸切等に変更することがあります。  
定休日：月曜日、第1火曜日 TEL：0877-23-3008

2. カフェレストMIMOCA  
ホンマタカシ  
〈三越包装紙〉Cプリント、2014年  
場所：当美術館3階  
営業時間：10:00-18:00 (LO 17:30)  
定休日：会期中無休 TEL：0877-22-2340